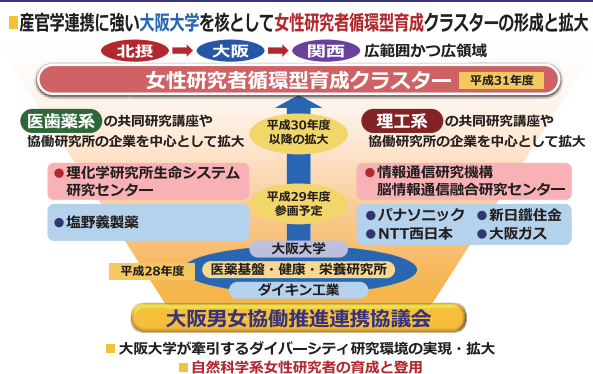




本プロジェクトが目指すもの



「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」が目指すもの

Contents

- 01 大阪大学シンポジウム**
「共創の好循環へー女性が輝く関西をめざして」
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)
キックオフシンポジウム 開催
- 02 ダイバーシティ研究環境実現のために**
・第1回外部評価委員会を開催
・ダイバーシティセミナー、センター・部局連携セミナー開催
・ダイキン工業インターンシップを実施
・実施体制の強化へ:2017年度センター特任教授、招へい教授
- 03 男女協働推進センターの取り組み:**
意識改革、理系女子学生増をめざして

Contents

01

大阪大学シンポジウム「共創の好循環へー女性が輝く関西をめざして」 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)キックオフシンポジウム 開催!

2017年2月20日(月)、「大阪大学シンポジウム」を大阪国際会議場で開催しました。あいにくの天候にもかかわらず350名の当初定員を超える約400名の方々にご来場いただきました。

大阪大学は、医薬基盤・健康・栄養研究所、ダイキン工業株式会社を共同実施機関として、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」(平成28年度～平成33年度)に採択されました。

このシンポジウムは、本事業のキックオフという位置づけとして開催され、「共創の好循環へー女性が輝く関西をめざして」をテーマに、新たな産学官「共創」のあり方、これからの働き方を創り出す「好循環」の可能性を探りました。



大阪大学シンポジウム「共創の好循環へー女性が輝く関西をめざして」

Kickoff Symposium.

2017年2月20日(月) 大阪国際会議場で開催

講演 「なぜ、いま女性活躍か」

日本の人口構造は急速に変化し、生産年齢人口の減少が予測されています。その半分を占めるのは女性です。女性の活躍にこそ希望があるといえます。ところが、日本の女性の就業率は、先進国に比べて、働き盛りの30代に出生や育児で離職する傾向が顕著です。育児と仕事の両立はやはり無理なのか。そうではありません。女性の社会進出が進んでいる国ほど、出生率は高い傾向にあります。女性活躍には、社会全体の「働き方改革」が重要です。これからは、女性はもちろん、多様な人の力を活用できる組織こそが繁栄していくのではないのでしょうか。



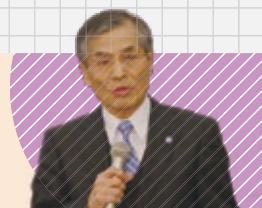
村木 厚子 招へい教授
大阪大学男女協働推進センター

Atsuko Muraki

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの
ビジョンと取組み

大阪大学は、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所及びダイキン工業株式会社との間に、10年以上に及ぶ先駆的な研究教育連携の実績を有しています。このような強固な信頼関係に基づき、本事業を推進します。本事業の特長は「女性研究者循環型育成システム」を形成し、多様かつ発展的なキャリアパスを提供することにあります。平成29年度には、西日本電信電話株式会社をはじめとする5つの企業と2つの研究機関が協力機関として参画します。今後、大阪大学内に共同研究講座・部門や協働研究所を有する約60社の企業を中心に呼びかけを行い、大阪、そして関西の研究機関・企業との連携を強化・拡大させます。

西尾 章治郎 総長
大阪大学

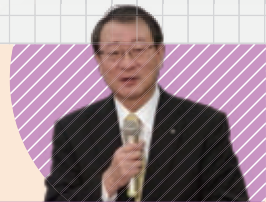


Shojiro Nishio

講演 「女性の視点が会社を変える」

女性が働きやすい環境づくりのために、通信設備の保守などを手がけるグループ会社の女性社員11名で、業務改善チームを結成。屋内作業、作業工具、ユニフォーム、バケット車作業などの課題を検証し、改善を図ったところ、男性社員の働き方改善にも拡大し、効果を発揮しました。女性活躍推進というと、女性だけの働きやすさを考えがちですが、女性視点が会社改革に繋がることを経営者は自覚すべきでしょう。女性には適さないといった先入観を取り払い、女性の活躍フィールドをさらに広げてまいります。

村尾 和俊 代表取締役社長
西日本電信電話株式会社



Kazutoshi Murao

パネルディスカッション

シンポジウムの締めくくりにはパネルディスカッションを実施。3機関の連携が切り拓く可能性や展望について有意義な意見交換がなされました。

村木氏からの期待の言葉：男女協働をはじめ、異なるものが出会う時、それまでの仕事や経営を変える大きなパワーが生まれます。だからこそ、3機関の連携によるプロジェクト推進が縮小傾向にある日本を元気にし、暮らしやすい社会づくりに繋がると思います。

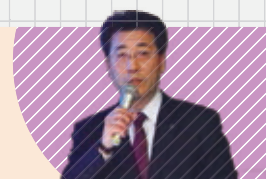
村尾氏からの期待の言葉：ダイバーシティや女性活躍において、連携型、循環型での推進が重要であり、大阪大学が中核となった共創が関西を底上げし、日本の成長へと発展していくことに期待しています。



米田 悦啓 理事長
医薬基盤・健康・栄養研究所

Yoshihiro Yoneda

澤井 克行 執行役員
ダイキン工業株式会社



Katsuyuki Sawai

ダイバーシティ研究環境実現のために

➤ 第1回外部評価委員会を開催



2016年12月5日 大阪大学吹田キャンパスと東京オフィス(テレビ会議システム利用)にて開催

2016年12月5日(月)、大阪大学吹田キャンパス本部棟と大阪大学東京オフィスをビデオ会議システムでつなぎ、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に係る第1回外部評価委員会を開催しました。

<外部評価委員会委員>

所属	職名	氏名
一般財団法人阪大微生物病研究会	理事長	山西 弘一
株式会社メディアワ	代表取締役	大石 佳能子
サントリーホールディングス株式会社	代表取締役副会長	鳥井 信吾
消費者庁	顧問	板東 久美子
立命館大学及び女子美術大学	客員教授 宇宙飛行士	山崎 直子

評価委員会からのコメント

産官学の多様な機関の特長を活かした新しい女性研究者の育成を目指すという取組みは高く評価できる。

成果をあげるためには、組織全体の意識改革や働き方改革、また次世代への働きかけが必要不可欠である。

男女を問わず、多様な考え方や知識、経験をもった人々を組織に取り込み、ライフステージに応じて、その一人ひとりの個性と能力が発揮できるダイバーシティ実現につながることを期待したい。

➤ ダイバーシティセミナー【主催:男女協働推進センター】

ダイキン工業(株)における女性活躍推進の取組み	2016 11/22(火)	吹田キャンパス 生命科学図書館・4階 AVホール	33名
LGBTの基礎知識 一性同一性障害学生への支援を中心に	2017 3/10(金)	吹田キャンパス 生命科学図書館・4階 AVホール	49名

➤ センター・部局連携セミナー【主催:男女協働推進センターと各部局】

大阪大学において、男女協働推進を通じて、大学の活性化を図ることを目的としたセミナーを開催することを積極的に行う部局に対して支援を行い、男女協働推進センター及び各部局の主催で、2016年度は6件開催しました。

10/23(日)	医	「2016年度Ginkgoの会 ～女性医師と女子医学生交流会」
10/24(月)	基	「理系女子学生のキャリアパスを考える ～米国女性研究者ダール先生を囲んで～」
1/19(木)	文	「いま、ここに子どもが来たら 一妊娠・育児をめぐる眼差しと体験から考える大阪大学」
1/19(木)・20日(金)	理	「宇宙科学分野の最前線で活躍する女性研究者Chris Done教授による講演」
2/3(金)	工	「女性研究者とその卵たちの集い～女性研究者ネットワーク構築をめざして」
2/24(金)	医・連合小児	「医系女子学生のキャリアパスを考える ～先輩女性医師を囲んで」

➤ ダイキン工業インターンシップを実施 <2016 2/13(月)～24(金)>

女子学生向けのインターンシップとして、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)の連携機関であるダイキン工業株式会社において女性限定(優先)インターンシップを実施し、4名の参加がありました。女性研究者の更なる活躍のために、女子学生・院生に対する多様なキャリアパスの提示と機会を提供していきます。

➤ センターの実施体制の強化へ ➤ 2017年度センター特任教授、招へい教授

男女協働推進センターでは、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)事業を実施しています。豊田政男特任教授、宮田俊男特任教授、村木厚子招へい教授、田中公明招へい教授(ダイキン工業(株)テクノロジー・イノベーションセンター技術管理グループ主事・2017年1月就任)に加え、2017年度からは、岩澤和子特任教授(厚生労働省医政局看護課長)、長野麻子招へい教授(農林水産省大臣官房広報評価課報道室長)を新たに迎え、事業をさらに強力に推進していきます。

男女協働推進センターの取り組み 意識改革、理系女子学生増

男女協働推進センターは、2016年4月1日に西尾章治郎総長が行った「大阪大学男女協働推進宣言」の3つの柱であるアクションプラン(①学修・研究・就業と家庭生活の両立支援の強化、②女子学生・女性上位職拡大の加速化、③ダイバーシティ環境実現に向けた構成員の意識改革)を推進するため、様々な取り組みを行っています。各取り組みの詳細は、男女協働推進センターホームページ(<http://www.danjo.osaka-u.ac.jp>)に掲載しています。

意識改革

常勤教員の男女協働意識に関するアンケート調査を実施

大阪大学の常勤教員が男女協働に関してどのような意識を有しているか、また大学がダイバーシティ研究環境を実現し、男女協働を推進する上でいかなる課題があるか、現状を把握するために、常勤教員全員を対象に、2016年12月1日～12月20日にマインダイ(大阪大学学内専用サイト)を通して、アンケート調査を実施しました。対象者3,266人のうち908人から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

アンケート結果から、男女で意識に差がある内容や、男女協働推進の取り組みの認知がまだ十分とはいえない現状がわかりました。男女協働推進に関する大阪大学の基本的方針やビジョンをどのようにわかりやすく構成員のみなさんに伝え、また正しい情報を提供していくか、再検討し、さらなる意識改革に向けて取り組んでまいります。なお、アンケート結果は男女協働推進センターHPよりご覧いただけます(学内専用サイト)。

理系女子学生増

女子高校生向けリーフレット「理系を目指す女子高生のための道しるべー大阪大学であなただの未来を描こう」を発行

男女協働推進センターでは理工系女子学生の充実したキャンパスライフや、女子学生の良好な就職状況などを知らせる目的でリーフレットを作成し、中高生向けのイベント・アウトリーチや、高大連携事業で広く配布しています。2017年3月には改訂版を発行しました。



理系女子学生増

女子中高生の理系進路選択支援プログラム「女子中高生のための関西科学塾」を開催

大阪大学をはじめとする、京都大学、神戸大学、奈良女子大学、大阪府立大学、大阪市立大学の6大学が連携して実施し、今年で11回目となる「女子中高生のための関西科学塾」。

今年度は、大阪大学が主担当となり、2016年7月24日の開校式から2017年3月26日の閉校式まで、1年を通じて、各大学での体験実験、施設見学、交流会、合宿を行いました。



12月18日に大阪大学で行われた「見て触れて体験して!大阪大学・ロボット研究最前線」では、女子中高生141人が参加し、大学の実験参加や今開発中のロボットの実際に触れ、最先端のロボット研究を体験しました。また、理系女子学生・大学院生、OGと交流し、理系進路選択について、キャリアデザイン、現在の大学生活など、色々な話を聞くことができました。

関西科学塾HP
<http://www.danjo.osaka-u.ac.jp/welcome-osaka-univ1/>

